

島生み（その一）の2

かれ二柱の神、天の浮橋（うきはし）に立たして、その沼矛（ぬぼこ）を指し下（おろ）して画きたまひ、塩こをろこをろに画き鳴らして、引上げたまひし時に、その矛の末（さき）より滴（したた）る塩の積（つも）りて成れる島は、これ淤能碁呂島（おのごろしま）なり。その島に天降（あも）りまして、天の御柱（みはしら）を見立て、八尋殿（やひろどの）を見立てたまひき。

／解説／

かれ二柱の神、天の浮橋（うきはし）に立たして=私とあなた、主体と客体は母音、半母音で示されます。ただそれだけでは
独り神で何の現象も生むことはありません。現象を生んでいくキッカケになるのが、チイキミシリヒニの八つの父韻です。

この主体と客体に懸ける橋を天の浮橋といいます。

伊耶那岐・伊耶那美の二神である言霊イ・ヰの創造意志が、実際の働きである八つの父韻と活動して。

その沼矛（ぬぼこ）を指し下（おろ）して画きたまひ=舌を使って音を色々に出してみることに。

塩こをろこをろに画き鳴らして=塩は四穂で、アオウエ、四つの母音を指します。機(しほ)の意味もあり、物事のキッカケを
言います。

八父韻を使って四つの母音をかき廻してみる。

引上げたまひし時に、その矛の末（さき）より滴（したた）る塩の積（つも）りて成れる島は=かき廻してみると、どんな事
が起きるか。舌の先から音が出てきます。

島は締めり。父韻 S で母音 A をかき廻せばサという心の締めりとなります。サという一字は、サと名付けるべきすべての物事
を締めくくって表現します。

これ淤能基呂島（おのごろしま）なり=己の心の締めり

その島に天降（あも）りまして、天の御柱(みはしら)を見立て、八尋殿（やひろどの）を見立てたまひき=人間が舌を使って
八父韻を活動させ、四つの母音の宇宙をかき廻すと音が生まれました。

その音の一つ一つが自らの心を表すそれぞれの音の立場に立って見ますと、自分の心の中心にアオウエイ・ワヲウエヰの柱が
立っており、その柱を中心にして八つの父韻が入る間が展開していることが分かってきました。